

59 モモのウメシロカイガラムシに対するマシン油乳剤の散布効果と樹体への影響

福島県果樹試験場 病理昆虫部・平成6～12年度試験研究成績書

- 1 部門名 果樹－モモ－病虫害防除 04－02－23000000
2 担当者 荒川昭弘・岡崎一博・阿部憲義
3 要 旨

マシン油乳剤をモモの発芽直前に散布した場合のウメシロカイガラムシへの防除効果と連年散布による樹体への影響を検討した。

(1) ‘ゆうぞら’15年生に対して、マシン油乳剤97% (ハーベストオイル)50倍と石灰硫黄合剤10倍の混合液を平成6年から連続7回散布した樹、一年おきに4回散布した樹、マシン油乳剤95% 25倍と石灰硫黄合剤10倍の混合液を連続7回散布した樹、および石灰硫黄合剤10倍液を連続7回散布した樹をそれぞれ6樹ずつ設けて、各樹のウメシロカイガラムシの寄生状況を調査するとともに、休眠期散布のモモ樹に対する影響を評価した。なお、生育期は上記以外の殺虫剤は通常どおり散布したが、ウメシロカイガラムシに対する防除剤は無散布とした。

(2)ウメシロカイガラムシの寄生状況は、マシン油乳剤無散布区で多く、果実被害も認められた。また、連年散布区、隔年散布区の順に寄生密度は低く、果実への寄生もほとんど認められなかった。

(3)ウメシロカイガラムシに対する天敵の影響をみるため、6月下旬から8月上旬にかけて4回殺虫剤を散布した区を設定し、寄生蜂の寄生率を調査した。その結果、散布区では寄生率が低く、ウメシロカイガラムシの寄生も多かったのに対し、殺虫剤無散布区では寄生率が高く、ウメシロカイガラムシによる果実被害も見られなかった。

(4)マシン油乳剤を7年間連続散布しても開花時期、果実収量、主幹部直径に差は認められなかった。このことから、マシン油乳剤を連続散布しても樹勢に対する影響はないと推察されたが、なお継続して樹体への影響を調査する予定である。